

科目名	舞踊Ⅳ							年度	2025
英語科目名	Japanese Dance Ⅳ							学期	後期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必／選	選	時間数	40	単位数	1	種別※	実技
担当教員	花ノ本寿、花ノ本寿美佳	教員の実務経験		有	実務経験の職種		舞踊家		
【科目の目的】									
舞踊Ⅲの授業でインプットしてきたものを、アウトプットする行程に切り替えていく。具体的には、成果発表時のキャスティングやフォーメーションでの実習（入退場なども含む）、実寸（床にバミリなどで個人個人の立ち位置や入退場を示す）での稽古、実際の曲順での反復などを中心とする。別に、着付け・礼儀作法・扇子の扱い・舞踊も鑑賞に耐えうるレベルに到達するまで細かくセクションごとに稽古する。									
【科目の概要】									
日本舞踊を通じて品や礼節を身につける。									
【到達目標】									
芸能は全てそうであるが、日本の伝統芸能も一筋縄ではいかないものが多い。勉強して積み重ねてきたことだけが本番で表出する。短時間に習得したものは顕れない。成果発表の時期には、着付け・礼儀作法・扇子の扱い・舞踊すべてが鑑賞に耐えうるレベルに到達したい。また、この授業を通して技能・知識だけでなく、集団での協調性や助け合う気持ち、伝統を重んじる心や謙虚な姿勢なども習得する。									
【授業の注意点】									
舞踊Ⅲ同様に、この授業独特の挨拶の仕方や設定されたルールは遂行し、さらに成果発表に向けて個人プレーではなく集団プレーであることを認識する。一人の行動で大勢に迷惑のかかることのないよう注意を配る。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。授業計画は成果発表の仕様・状況により、一部流動的となる。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル4 よい		レベル3 ふつう				
到達目標 A	相手の目を見て挨拶することができる		挨拶することができる		挨拶することが全くない				
到達目標 B	課題内容を理解し表現できる		課題を表現できる		課題を表現できない				
到達目標 C	遅刻・欠席をしない		遅刻・欠席が少ない		遅刻・欠席が多い				
【教科書】									
浴衣一式、扇子、手ぬぐい。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

[illegible]